

第23期業績のご報告

(2018年7月1日～2019年6月30日)

2019年 9月 吉日
日本システムバンク株式会社
代表取締役社長 野坂 信嘉

当事業年度のわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調にあるものの、保護貿易主義を巡る対立激化や金融政策動向の影響が懸念されるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、駐車場業界におきましては、慢性的な駐車場不足により都市部を中心として高い駐車場需要はあるものの、訪日外国人の増加による宿泊需要の高まりを受け、駐車場から宿泊施設への転用や土地の賃借料の高騰など、厳しい事業環境となりました。

このような環境のもと、当社は、利用者には選ばれる駐車場の提供を目標に、「便利で快適な駐車場づくり」に注力致しました。

利便性向上の面では、駐車場利用者の利便性及び効率性を高めるため、スマートフォンでの駐車場検索から利用料金の決済が可能なサービス「SmooPA」の普及に注力致しました。快適性向上の面では、駐車場内でのトラブル発生時の対応品質の向上を図るため、コールセンターの入電管理システムの刷新を行いました。

以上の結果、売上高は6,272,353千円(前期比102.8%)、営業利益は155,608千円(前期比73.3%)、経常利益は97,014千円(前期比58.8%)、当期純利益は319千円(前期比0.4%)となりました。

事業区分別の業績は以下のとおりです。

【コインパーキング(以下CP)事業】

CPシステム運営事業では、新規駐車場においては、積極的な営業活動を行い開設を進めました。既存駐車場においては、駐車場の需給バランスを考慮した料金設定の最適化を継続的に実施し、収益力の向上に努めて参りました。その結果、売上高は2,982,930千円(前期比101.8%)となりました。

CPシステム販売管理事業では、駐車場システムの販売においては、上期は得意先の新規駐車場開発が低調に推移したものの、下期は一転して新規開発が好調に推移した結果、前年比増収となりました。メンテナンス売上においては、駐車場システムの新規販売に伴う管理駐車場数の増加により、底堅く推移致しました。その結果、売上高は3,049,454千円(前期比104.5%)となりました。

これらの結果、同事業全体の売上高は6,032,384千円(前期比103.2%)となりました。

【プロパティマネジメント事業】

プロパティマネジメント事業におきましては、「満室経営」を目指し物件の稼働率向上に注力致しました。その結果、売上高は230,271千円(前期比96.0%)となりました。

事業別の売上高は次のとおりであります。

事業区別	売上高	前期売上高	前期比
コインパーキング事業	6,032,384千円	5,848,153千円	103.2%
プロパティマネジメント事業	230,271千円	239,821千円	96.0%
その他	9,697千円	12,568千円	77.2%
合計	6,272,353千円	6,100,543千円	102.8%